

神鏡作畢
二
独立海上輸送第十六隊
第三隊
中隊
史實資料

昭和三十一年三月二十五日
第三十二軍殘務處理部

第三中隊戰鬥經過概要

昭和二十年三月二十二日 那霸地区ノ警備ニ當リ

昭和二十年三月二十四日 長堂陣地ニ平賀部隊ニ配属 第六大隊特

設海上輸送隊、一個小隊配属ト共ニ長堂陣地ノ警備既遣ニ當リ

一個中隊ノ兵力百五十六名

昭和二十年四月二十日 長堂陣地ヨリ首里 辨ヶ嶽陣地ニ移動ス

移動セリ

昭和二十年四月二十四日 十八時ヨリ辨ヶ嶽ヨリ那覇市古波長陣地

ニ到着迄移動ス 途中下士六名、兵一名戦死ス 古波長陣地警備

ニ當リ

昭和二十年四月三十日 古波長陣地ヨリ那覇市古波長陣地ニ移動ス

昭和二十年五月五日 波上陣地ニ兵四名戦死ス

昭和二十年五月二十日 波上陣地ヨリ二日町陣地ニ移動ス 敵方

ニ對シテ之ヲ追ヒ 真志街道ニ敵ノ追撃砲ノ火ニ二十六名ノ下士兵

戦死ス

昭和二十年五月二十二日 壹屋陣地ニ於テ戰鬥シ中隊長以下六五
名戦死ス

昭和二十年五月二十四日 津嘉山 長官陣地ニ移動シ敵ノ艦砲
ニシテ戦死ス九名

昭和二十年五月二十五日 鳥尻郡ノ重瀬岨陣地ニ移動中 敵生死不
明者四名

昭和二十年五月二十七日 八重瀬岨ニ到着シ共ニ生存者六十六名 原田
中隊ニ配属スリ

昭和二十年六月十二日 八重瀬岨ニ敵ト戰鬥開始シ 平賀部隊生存者
共百八十名ニ戦死ス

昭和二十年六月十九日 遂ニ平賀部隊長 敵ノ機向金澤ニシテ戦死
將校以下百五十名ノ戦死者ヲ出ス

昭和二十年六月十九日 十八時 部隊長戦死ト共ニ部隊ハ解散トナリ百
五十名ハ真栄平 直方屋村ニ移動ス

昭和二十年六月二十日 摩文仁ニ到着ス

昭和二十年六月三十日 軍司令官戦死ト共ニ五十名ハ生死不明
トナリ

第四中隊戰鬥經過ノ概要

三月十八日 沖繩那霸港ニ上陸 直ニ軍司令部ニ陸揚ス 三月二十三日
大空襲ニシテ船団ハ全滅ス 爾後 津嘉山ニ到リ 陣地ヲ構築シ

四月十六日 命ニシテ首領澤地ニ到リ 中隊ニ到着ス 三十八傷死
ニ既展シク 五月一日 敵未だ来リテ 中隊ニ到着ス 其ノ向新ニ攻

ニ攻撃ス 中隊ノ敵ヲ包圍ス 四時 敵部隊(約四百) 後我
戦死傷者多数ヲ出シ 中隊本部ノ環ニ入リ 而シテ夜間ヲ待テ

后九時頃 重傷傷者ヲ石ヲ十五大隊 医務室ニ收容ス 其ノ夜 中
隊長 石田一夫 中尉ハ生残り 四十名ノ下士官兵ヲ率ヒ 三十八高地

ニ新ニ攻塞約二十五名ノ戦死者ヲ出ス 中隊長ニ壯烈ニ戦死ス

遂ガ 此ノ時 中隊ハ石部第五大隊配属トシテ戰鬥ス

生残者十五名ハ十五大隊長ニ指揮下ニ入り、戦手ヲ計續シ五月
十三日頃、指揮下ノ平賀部隊ニ合流ス。而シテ一度津嘉山ニ到リ、那霸戦線ニ向テ出撃ス。此ノ内、治原憲春
ハ那霸ニ向テ出撃ス。
那霸ニ於テハ坪屋町ノ陣地ニヨリテ敵數數日同、此ノ内、斬込算ニ
ヨリテ敵人員ニ多敷ノ損害ヲ與ヘタルモ、多數ノ戦死傷ヲ出シ、以
後津嘉山ヲ通過シ、八重瀬嶽ニ到ル。此レヨリ先、部隊全部ノ負傷者ハ
八重瀬ニ集合、部隊長平賀大佐ハ本部ヨリ、壕ヲ出テ上
タル時、迫襲砲ノ直撃ヲ受テ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲタリ。又、負傷不足ノ大
負傷者モ起テ、東尾平方面ノ敵ニ當レリ、出撃シ、斬込、内迫、攻奪
算ニテ敵ニ多敷ノ損害ヲ與ヘタリ。然レドモ八重瀬嶽亦敵ノ馬
乗りトスル所ナリ、已タテ、重傷者ハ、眞窟ヲ通過シ、尾屋武部
落方面ニ後退セリ、以後指揮官ナク解散ス。
第五中隊モ亦六工師團ニ配属セシ、残余ハ平賀部隊ト共ニ戦斗

昭和十一年五月十三日、津嘉山、八重瀬嶽、那霸方面ノ戦況ニ関スル報告書